



観桜美人之図 伊藤小坡筆 古川美術館蔵

(平成4年11月1日～平成5年1月24日、古川美術館
『女性が描いた女性像—上村松園と伊藤小坡』展より)

女性が、仕事を極めつつ家庭も大事にするというのは大変なことである。美人画家の伊藤小坡（いとう しょうは、明治23～昭和43年）は、その昔それを成し遂げた数少ない女性である。彼女とよく比較される二つ年上の上村松園が、子育てと家事一切を実母と姉に任せてひたすら画業に打込んだのに対して、小坡の方は、売れっ子で山のようにくる絵の注文もこなしながら、夫や三人の娘さんといっしょに夕涼みやお花見、紅葉狩りをしたりと、家族との時間もとても大切にしていた。こうした両立も、小坡の夫の伊藤鶯城が画家であり、彼女の仕事の良き理解者であったためだろう。

小坡は、絵の業績では、女性で初めて文化勲章を受章した松園には及ばないが、帝展・新文展の無鑑査となるなど当時の女流画家としてはかなり評価も高かった。そして、晩年は白内障を患いながらも、90歳で亡くなるまで、家族に囲まれながら絵筆を取り続けたという。

(古川美術館 学芸員 杉浦希久子)

目 次

●愛博協20周年以降の諸事業の足跡……………	2
●移転加盟館見てある記……………	5
●新規加盟館紹介……………	6

昭和39年1月、「愛知県博物館協会」（愛博協）の前身である「愛知地区博物館協議会」が発足、来る平成6年1月には30周年を迎えます。この間、愛博協は協会報「愛知の博物館」を発行し、協会の歩み・種々の事業の足跡を記録してきました。しかし乍ら年2～3回の発行では紙面も限られ、そのすべてを残すことはできません。

今号は、20周年以降の愛博協の歩みを振り返ると共に、20周年当時65館であった加盟館も今や107館と大きく育ち、この間に加盟された関係各位にも当協会の歩みを知って頂きたい、主な事業の足跡をまとめ掲載致します。

A. 東海三県博物館協会交流研修会

昭和59年度（59. 10. 25～26）

会場 豊橋勤労福祉会館（愛知県）
テーマ 「博物館等におけるPRの実際と方法」

昭和60年度（60. 10. 24～25）

会場 下呂町民会館（岐阜県）
テーマ 「博物館機能の近代化について」

昭和61年度（61. 10. 20～21）

会場 菰野町社会福祉センター（三重県）
テーマ 「各博物館におけるPR活動について」

昭和62年度（62. 10. 29～30）

会場 猿投棒の手ふれあい広場（愛知県）
テーマ 「博物館へのアクセス——交通からみた三
県博物館の連係のありかたを探る——」

昭和63年度（63. 10. 18～19）

会場 海津町文化センター（岐阜県）
テーマ 「各館の現状と課題」
講演 「宝暦治水と近代の治水」海津町長

平成元年度（元. 11. 29～30）

会場 三重県厚生年金休暇センター（三重県）
テーマ 「開かれた博物館・受身でない博物館」
講演 「二十一世紀の博物館」鳥羽水族館長

平成2年度（2. 10. 4～5）

会場 知多美浜簡易保険保養センター（愛知県）
テーマ 「観光地の中での博物館——観光施設化の
功罪——」
講演 「観光地の中での博物館」日本福祉大学教
授福岡猛志氏

平成3年度（3. 10. 17～18）

会場 グリーンピア恵那（岐阜県）
テーマ 「生涯学習と博物館」
講演 「博石館の経営について」博石館々長岩本
哲臣氏

平成4年度（4. 11. 26～27）

会場 鳥羽水族館
テーマ 「展示における視聴覚機器のはたす役割」
講演 「新館建設について」海の博物館々長石原
義剛氏、鳥羽水族館副館長片岡照男氏

B. 愛知県博物館等職員研修会

昭和59年度（59. 9. 12～13、於名古屋海洋博物館）

テーマ「博物館等における調査・研究」
発表者・名古屋市東山動植物園 坂梨一郎氏
・常滑市民俗資料館 中野晴久氏
・名古屋市博物館 犬塚康博氏
・伊良湖自然科学博物館 大谷招久氏

昭和60年度（60. 9. 12～13、於シーサイド伊良湖）

テーマ「資料交換と展示企画の問題点」
発表者・愛知県陶磁資料館 浅田員由氏
・昭和美術館 服部昭義氏
・和紙展示館 富樫 朗氏

昭和61年度（61. 9. 11～12、於愛知県陶磁資料館）

テーマ「博物館におけるボランティア活動」
発表者・三重県立博物館 森田氏
・半田市立博物館 山田氏
・名古屋市見晴台考古資料館 野口氏

昭和62年度（62. 9. 10～11、於蒲郡荘）

テーマ「博物館における教育普及活動——講座・教室・
学習会等の運営——」
発表者・名古屋市博物館 水谷栄太郎氏
・豊橋市地下資源館 家田健吾氏
・博物館明治村 伊藤昌子氏

昭和63年度（63. 9. 8～9、於尾西勤労青少年福祉
センター）

テーマ「博物館・美術館の展示効果」
発表者・豊橋市自然史博物館 家田健吾氏
・名古屋市科学館 三輪 克氏
・徳川美術館 四辻秀紀氏
・一宮市博物館 毛受英彦氏

平成元年度（元. 9. 7～8、於豊橋勤労福祉会館）

テーマ「博物館・美術館の展示効果」
発表者・名古屋市博物館 井上光夫氏
・豊橋市自然史博物館 坂本博一氏
・おかざき世界子ども美術館 荒井信貴氏
・熱田神宮宝物館 野村辰美氏

平成2年度（2. 9. 6～7、於サンパーク犬山）

テーマ「博物館における資料収集と研究」
発表者・博物館明治村 中野裕子氏
・豊橋市自然史博物館 家田健吾氏

- ・ヨコタ博物館 横田正臣氏
- ・古川美術館 杉浦希久子氏

平成3年度（3. 9. 5～7、於岡崎勤労福祉会館）

テーマ「外から見た博物館」

- 発表者・武豊町歴史民俗資料館友の会 田島 明氏
- ・岡崎市教育委員会社会教育課 太田昭夫氏
- ・名古屋商科大学附属高校 長畑 実氏
- ・愛知県埋蔵文化センター 森 勇一氏

平成4年度（4. 9. 3～4、於半田勤労福祉会館）

テーマ「地域と博物館」

- 発表者・窯のある広場資料館 神谷秀雄氏
- ・鳳来寺山自然科学博物館 松井 保氏
- ・美和町歴史民俗資料館 鎌倉崇志氏
- ・常滑市民俗資料館 中野晴久氏

C. 美術部門研修会

昭和59年度（59. 6. 27、於昭和美術館）

- ・「表具の裂」

昭和60年度

①（60. 9. 21、於昭和美術館）

- ・「万葉植物について」（植物研究者 庄司信洲氏）
- ・「漆器の知識と取扱」（茶道家 村瀬広之氏）
- ・「写真撮影の心得」（写真師 佐藤孝志氏）

②（61. 3. 27、於昭和美術館）

- ・「美術工芸品（金工）の知識と取扱」（釜師 伊藤 鏖一氏
- ・「カルチャセンターの展望」（朝日カルチャセンター寺島優之氏）

昭和61年度（62. 2. 26、於昭和美術館）

- ・「外国人来館者に対する初歩の英会話」（欧文センター、(株)荒川印刷）
- ・「染料と顔料」（堀江染色研究所 堀江勤之助氏）
- ・「美術印刷物等に関する一般知識」（(株)荒川印刷）

昭和62年度

①（63. 2. 25、於土岐美濃陶磁歴史館）

- ・「シルクロードと日本の美術（やきもの）」（日展会員・審査員 加藤卓男氏）

②（63. 3. 15、於昭和美術館）

- ・「大和絵について（画法）」（金城大学講師 堀江勤之助氏）
- ・「浮世絵の見方」（日本浮世絵博物館 酒井雁高氏）
- ・「陶器収納箱の製作」（辻野商会）
- ・「カメラ・視聴覚・事務機器の最新情報」（ワキタ商会）

昭和63年度（元. 2. 17、於昭和美術館）

- ・「絵画」（洋画・日本画）の画材一知識と現代の顔

料一」（画材商 森 健善氏）

- ・「ポスター入門」（二科会 岩田 明氏）

- ・「最新視聴覚機器及びカメラ・ワープロ・ビデオの情報及び紹介」（ワキタ商会）

平成元年度（2. 3. 2、於昭和美術館）

- ・「イタリア・ルネッサンスの美術」（愛知教育大学名誉教授 磯谷桂治氏）
- ・「絵画の知識と取扱い方について—古美術（東洋絵画）工芸品取扱い心得要領—」（山種美術館顧問 中村秀男氏）

平成2年度（3. 3. 1、於昭和美術館）

- ・「世界に発言する日本美術」（名古屋造形芸術大学教授 中村英樹氏）
- ・「話し方について」（元東海ラジオアナウンサー 矢橋 昇氏）
- ・「I. 光源について II. 美術館の展示照明について」（(株)日立製作所 大野幸男氏）

平成3年度（4. 2. 28、於昭和美術館）

- ・「彫塑作品について」（日美連会員 早川 収氏）
- ・「博物館・美術館の空気質の評価と汚染物質の除去」（清水建設(株) 鈴木良延氏）
- ・「大和絵の構成、技法、画法について」（中部伝統染織工芸会代表幹事 堀江勤之助氏）

D. 歴史民俗部門研修会

第5回（60. 8. 1、於名古屋市見晴台考古資料館）

- ・「館の活動について（発掘調査とボランティア）」
- ・「見晴台遺跡発掘調査の見学」

第6回（63. 2. 23、於熱田神宮宝物館）

- ・「資料の取扱いについて—刀剣を中心に—」（(株)日本美術刀剣保存協会 理事 安藤 猛氏）

第7回（元. 3. 23、於名古屋市博物館）

- ・「甲冑の取扱いについて」 刀美会 会長 櫻井良樹氏
- ・「甲冑の梱包・運搬について」 日本通運美術品課

第8回（元. 7. 27、於東海銀行）

- ・「時代判定基準としての貨幣」 東海銀行貨幣資料館 調査役 工藤洋久氏

第9回（2. 11. 20～22、於名古屋市博物館）

- ・「写真技術の実際」 名古屋市博物館 写真技師 杉浦秀昭氏

第10回（4. 1. 22、於名古屋市博物館）

- ・「普及事業へのコンピュータ利用」 名古屋市博物館 学芸員 井上善博氏
- ・「資料管理へのコンピュータ利用」 徳川美術館 学芸員補 加藤啓子氏

E. 自然科学部門研修会

平成元年度（2. 3. 9、於名古屋市科学館）

・「科学系博物館に求められるもの」

名古屋学院大学 教授 廣瀬 鎮氏

・「サイン計画の考え方、進め方」

名古屋芸術大学 講師 高橋英次氏

平成2年度（3. 2. 7、於日本モンキーセンター）

・「愛知県内の哺乳動物の問題を考える一特にニホンザル・ネズミ類について」

愛知教育大学 教授 金森正臣氏

・「博物館の調査活動における市民参加—平塚市カエル調査を例として」

平塚市博物館 学芸員 浜口哲一氏

平成3年度（4. 2. 14、於名古屋市科学館）

・「科学系博物館におけるコンピュータ利用について」

科学技術館 学芸員 水嶋英治氏

F. 学芸懇談会

第1回（58. 11. 29. 17:00、於名古屋 八雲）

『20年史』用の「若手学芸員大いに語る」座談会、
並びに発起会

第2回（59. 1. 10. 18:00、於名古屋 九龍）

経費面からみた講座・教室の企画について

名古屋市科学館 三輪 克氏

第3回（59. 3. 14. 18:00、於名古屋 九龍）

友の会の設立・運営の実際について

愛知県陶磁資料館 山田銀一氏

第4回（59. 5. 9. 18:00、於名古屋 九龍）

友の会の設立・運営の実際について

名古屋市見晴台考古資料館 山田鉦一氏

第5回（59. 7. 11. 18:00、於豊橋 フレスノ）

共同企画展示の実際と問題点

桑山美術館 尼 江里子氏

豊橋市美術博物館 後藤清司氏

第6回（59. 9. 12. 18:00、於名古屋 船員会館）

博物館における調査研究（愛博協研修会の引継で懇
話会）

第7回（59. 11. 14. 18:00、於名古屋 九龍）

小規模博物館における学芸職員の役割

東海市立平洲記念館 立松 彰氏

第8回（60. 1. 16. 18:00、於名古屋 九龍）

社全協第24回大会の博物館部門分科会に参加して

㈱エルモ社 小栗彰夫氏

第9回（60. 3. 13. 18:00、於名古屋 九龍）

博物館機能のパラダイムに関する一考察

名古屋市科学館 三輪 克氏

第10回（60. 5. 15. 18:00、於名古屋 九龍）

コンピュータによる博物館データ・ベース作成のた
めに 1

名古屋市博物館 犬塚康博氏

第11回（60. 7. 10. 18:00、於岡崎 三福停）

コンピュータによる博物館データ・ベース作成のた
めに 2

名古屋市博物館 井上善博氏

第12回（60. 9. 18. 18:00、於名古屋 九龍）

コンピュータによる博物館データ・ベース作成のた
めに 3

名古屋市科学館 三輪 克氏

第13回（60. 11. 13. 18:00、於豊橋 新珠飯店）

視聴覚機器利用の事例

豊橋地下資源館 家田健吾氏

おかざき世界子ども美術博物館 村松和明氏

第14回（61. 1. 16. 18:00、於名古屋 九龍）

半田市博物館の友の会について

半田市博物館 小川和美氏

第15回（61. 3. 12. 18:00、於名古屋 九龍）

博物館における情報処理について

名古屋市博物館 松村冬樹氏

第16回（61. 5. 21. 18:00、於名古屋市博物館）

博物館における情報処理について——その2——

名古屋市博物館 松村冬樹氏外

第17回（61. 7. 16. 18:00、於名古屋 九龍）

鷹の文化史

日本鷺鷹センター 中島欣也氏

第18回（61. 9. 17. 18:00、於名古屋 九龍）

博物館活動と地域社会

名古屋市博物館 犬塚康博氏

常滑市民俗資料館 中野晴久氏

第19回（61. 11. 26. 18:00、於名古屋 九龍）

環境設計からみた展示

㈱電通 名古屋支店 木村 実氏

第20回（62. 1. 21. 18:00、於名古屋 九龍）

学芸職員大いに語る

第21回（62. 3. 11. 18:00、於名古屋 九龍）

博物館をめぐる

名古屋大学理学部教授 糸魚川淳二氏

第22回（62. 5. 19. 18:00、於熱田神宮宝物館）

神社博物館の活動について——熱田神宮の活動を通
じて——

熱田神宮宝物館 岡田芳幸氏

第23回（62. 7. 22. 18:00、於熱田神宮宝物館）

日本展示学会福岡大会参加記一味の展示は可能か—

名古屋市博物館 田中青樹氏

第24回 (62. 9. 24. 18:00、於熱田神宮宝物館)
博物館の人材を生かす——白帝450野焼きまつりの
イベントを通して——

岩田洗心館 岩田正人氏

第25回 (62. 11. 26. 18:00、於熱田神宮宝物館)
文化財の保護と修復——東京国立文化財研究所の研
修会に参加して

熱田神宮宝物館 岡田芳幸氏

第26回 (63. 1. 20. 18:00、於名古屋 九龍)
アメリカにおけるミュージアムショップの現状と考
え方 名古屋市科学館 三輪 克氏

第27回 (63. 3. 16. 18:00、於熱田神宮宝物館)
一宮市博物館の建設について
一宮市博物館 毛受英彦氏

第28回 (63. 5. 18. 18:00、於名古屋 九龍)
博物館ネット・ワークとそのデータ・ベース化につ
いて アダックス 加藤久兵衛氏

第29回 (63. 12. 7. 18:00、於名古屋 九龍)
名古屋に美術館ができて
名古屋市美術館 深谷克典氏

第30回 (3. 1. 18. 18:00、於名古屋 九龍)
博物館の教育的利用
名古屋商科大学附属高校 長畑 実氏

第31回 (3. 4. 3. 18:00、於名古屋 九龍)
INAX ギャラリーの企画運営について
INAX ギャラリー 松尾律子氏

第32回 (3. 5. 15. 18:00、於名古屋 九龍)
トヨタ博物館開館2年の歩み
トヨタ博物館 納所克志氏

第33回 (3. 7. 17. 18:00、於 INAX 技術研修セン
ター)
醸造『伝承館』をつくる
醸造『伝承館』 中川隆文氏

第34回 (3. 9. 11. 18:00、於名古屋 九龍)
衣生活史研究から博物館へ
衣の民俗館 高橋春子氏

第35回 (3. 11. 20. 18:00、於名古屋 九龍)
社会と博物館の望ましい関係
（財）NIRA 杉本金男氏

第36回 (4. 1. 22. 18:00、於名古屋 九龍)
私の祭祀遺跡研究と沖ノ島探訪
東海女子短期大学 岩野見司氏

第37回 (4. 4. 1. 18:00、於名古屋市科学館)
博物館教育の現代化と世界の動向
名古屋学院大学 廣瀬 鎮氏

移転加盟館見てある記

古 川 美 術 館

秋の昼下がり、透き通った噴水が溢れ出る入
口、誘われるように扉に触れる。

すうっと指先から離れて視界が広がった。サー
モンピンクの大理石、静かに流れるモーツァルト。
ローズピンクの螺旋階段が、まるでパーティ会場
へ導くようにタキシードの紳士のエスコートを予
感する。

淡いレモン色の光が、壁にすりガラスの花々を
浮き上がらせる。展示室に足を踏み入れるとふあ
っと美人画が映し出された——。

ここは、名古屋栄のビル内の一室にあった「（財）古川
会サロン&ギャラリー」が、地下鉄池下駅厚生年金会
館前に移転し、平成3年に新築オープンした美術館。

開館2年目を迎え、絵葉書や図録、オリジナルカレ
ンダーも揃い、当初は平日20名ほどの入館者が、今は
その4倍になるなど充実度が増してきた。入館者の大
半が女性という理由の一つは、きっとこの館全体から
香いたつエレガントさにあるのだろう。ヘラルドコー
ポレーションの社長古川為三郎氏が長年のコレクショ
ンを寄贈し、（財）古川会を設立、氏が館長となって、現
在スタッフは学芸員・事務員・受付アルバイトを含め
約5名。所蔵品の8割が日本画、残りを工芸品が占め
る。大観・青邨・松園・清方など近代日本絵画の代表
画家の作品のほか、茶道具・陶芸作品・刀剣など日本
工芸品も所蔵しているという。2階のハイビジョンル
ームでは、館の紹介を流しており、欧州中世の「ブシ
コー派の祈禱書」も目玉の一つのようだ。

2階展示室には、ゆったりとした椅子が中央に据え
られ、ゆっくり観賞できる。スロープ・エレベーター
など障害者対策もされており、ロビーにはソファと
机、自販機のコーヒーなど小ぢんまりとした落ち着いた
雰囲気をもっている。

一方、収蔵庫・荷解室・学芸員研究室・会議室など
最新の設備が整えられ、警備もコンピューター管理さ
れ、「器」・「もの」とも充実しているといえよう。

広報紙の発行や、講演会・美術教室の開催、友の会
の設立など今後の抱負を熱っぽく語ってくれたスタッ
フに少人数ながらも「人」の充実を感じた。

（熱田神宮宝物館 学芸員 久野ちはや）

新規加盟館紹介

平成4年度に当協会へ加盟されました館の概要を、ここに紹介します。

県立芸術大学芸術資料館 法隆寺金堂壁画模写展示館



所在地 〒480-11

愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峰1-1

愛知県立芸術大学構内 TEL <0561>62-1180

交通 地下鉄藤ヶ丘駅より名鉄バス農業試験場行県立芸大前下車約5分

駐車場 25台（無料）

沿革 法隆寺金堂壁画は東洋仏教壁画中最高傑作の一つであり、木造建築に描かれた壁画としては最古の芸術性高い作品でした。しかし、昭和24年の失火により、壊滅的な損傷を受けました。本学では美術教育における古典研究の一環として昭和49年法隆寺金堂壁画の再現模写に着手、昭和63年に14年の歳月をかけて12面の壁画模写を完成、平成元年9月に開館しました。

施設 敷地 10,873㎡

鉄筋コンクリート平屋建て

収蔵庫 218㎡ ロビー 73㎡

荷解室 62㎡ 応接室 35㎡

展示室 310㎡ 管理室 21㎡

特別展示室兼模写保存修理研究室 251㎡

開館 春季）3・4・5月の各月16日～月末

秋季）9・10・11月の各月16日～月末

10：00～16：00 （入館は15：30まで）

休館 各月の最終日曜日を除く日曜日

入館料 無料

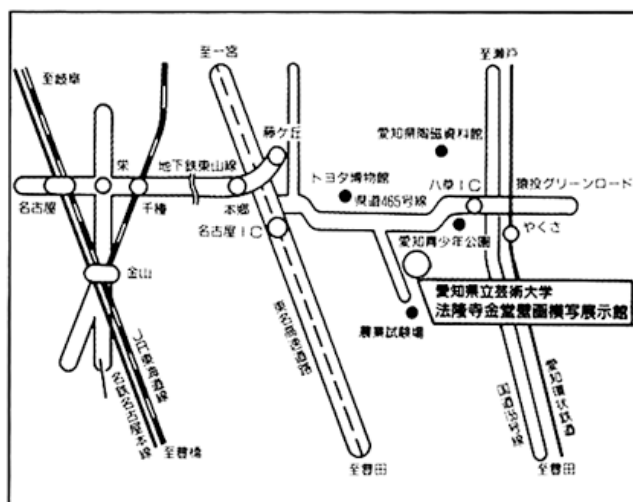
特色 本学の展示館に展示されている壁画模写は、焼損当時の状態を忠実に表した現状模写です。したがって、表面の剝落した部分や掻き傷は、そのままの状態に模写されています。

12面の壁画は、原寸大で奈良の法隆寺金堂の方角を考慮して配置されています。

そして、外陣内壁に描かれているのがわかるように、金堂の模型（1/15）が中央に配置されています。

なお、ロビーには、制作風景の写真や、模写に使用された絵画などを展示しています。

また、企画展示室において、高松塚古墳壁画模写、釈迦金棺出現図などの展示を適宜、同時開催しています。



「愛知の博物館」No.57

発行日 平成4年12月10日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地

愛知県陶磁資料館内

TEL <0561> 84-7474

FAX <0561> 84-4932